生活科学研究所研究報告

創刊のことば

研究所長　津　郷　友　吉

昭和52年度本学における諸事業が終る3月に当り，ここに「生活科学研究所研究報告」の創刊号を発刊することになりました。この機会に一言所感を述べて，本学関係の諸先生の御協力により，本研究報告が今後一層発展するよう祈念いたしたいと存じます。

顧みますと「生活科学研究所」という名称が生れましたのは古く昭和24年のことで，生活科学についての学術研究の促進をはかることを目的として設置されました。しかしながら当時はなお戦後間もない時代のこととて，実際に行なわれた事業は今回とはかなり異なっていたようにうかがっております。

ここにいう生活科学とは本学部にある3学科にて修得する児童学，栄養学および服飾美術学を包含するものでありますが，昭和48年にいたり，研究所は学部における基礎的知識の上に更に専門的な学問を技術的訓練と合わせて修得させる，いわば大学院修士課程に相当するような性格をもたせるという新しい構想のもとに山下俊郎先生が初代の研究所長に就任され，2年間の研修生の養成を取りいれた新しい研究所規則を作成され，事務所を創設し，ここに今日の研究所の基礎をつくられました。

その後具体的な研修生の規程は昭和50年にできあがり，同年4月1日から実施されるにいたっておりますが，諸般の事情もあって，実際に研修生がはじめて入所したのは昭和51年のことで，今年3月，ここに第1回の修了者を迎えることになり，研修生規程による研究報告書が提出されました。この研究報告は研究所の性格からみて，大学院修士論文に相当するものであり，このような研究報告をここに創刊できるようになりましたのは誠に喜ばしいことと存じます。

なお研究所の事業には研修生の養成以外に研究所の所員による研究および調査という本来の目的があり，昭和51年以来3学科からの所員による「人間形成という立場から家政学を再検討する方向で総合的な協同研究」が続けられており，その第1報ともいってよい研究報告ができましたので，同時に上程することになりました。先生方の御批判と御叱正が頂ければ幸いと存じます。

終りに，これからも諸先生の格別の御支援と御協力を切に御願いする次第であります。